

看護第二学科 廃止に寄せて



目次

1. ご挨拶	学校長 武藤和恵P1
2. 課程廃止への思い	看護第二学科長 大河原亮一P2
3. 沿革	看護第二学科 49 年の歩みP3
4. 卒業状況	P4
5. 教育課程の変遷	P5
6. 写真でふりかえる	P8
7. 卒業生の在学中の思い出	P15
8. 最後の卒業式	P19
9. 編集後記	P20

ご挨拶



学校長 武藤 和恵

厚木看護専門学校看護第二学科が本年3月末を以て49年の歴史を閉じることとなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

看護第二学科は、本校が厚木准看護婦学校として開校した4年後の1972年、2年課程看護婦学科として新設されました。准看護婦から看護婦への移行教育として、地域や医療機関の大きな期待を受け、その歩みを踏み出しました。働きながら学ぶ課程のため、1・2年次は近隣の医療機関で准看護師として勤務する中、午後から夕方まで授業を受け、3年次は集中して臨床実習を行うという3年かけての昼間定時制でした。卒業後は所属する医療機関で看護師として働く学生がほとんどでした。

1982年に3年課程全日制である看護第一学科の新設に伴い、現在の看護第二学科に名称が変更されました。2003年に本校准看護学科が廃止されてからは、県内外の准看護課程、また現場で働く准看護師の進学先として、現在に至るまでその役割を担ってきました。

2012年に神奈川県が准看護師養成停止を表明してからは、県内准看護課程の相次ぐ廃止に伴い、本校の志願者数も下降の一途を辿ります。その対応として、2013年からは働きながら学びやすい環境を模索し、全日の週3日制に変更しました。一時的に志願者は増加したものの、看護大学等4年制化推進の流れの中、2019年度からの募集停止を決断しました。2018年4月に入学した47回生が最後の学生としてこの3月に卒業し、看護第二学科卒業生は計1242人にのびります。

看護第二学科の学生は、准看護師教育を受ける中で、今後の医療において准看護師では対応できないという危機感、看護師としてキャリアアップしたいという強い意志を持つ非常に意欲的な学生たちであったと感じています。問題意識が高く、理論や根拠を学びたいという思いにあふれていると感じる場面が多々ありました。約半世紀続いてきた看護第二学科が廃止となることは非常に寂しいことですが、これも看護が発展していく過程における時代の必然性であると受け止めております。本校はこれからは3年課程のみとなりますが、准看護学科、看護第二学科と地域で築いてきた厚木看護専門学校の精神はしっかり受け継がれています。その精神を今後も繋いで発展させられるよう努力を続けてまいります。

これまで長い間、看護第二学科を温かく見守り、ご指導、ご尽力いただいた医師会、厚木市、実習病院、医療機関等多くの皆様にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

看護第二学科廃止への思い



看護第二学科長 大河原 亮一

「おはようございます」

朝のホームルームは教員と学生で一斉に気持ち良い挨拶が交わされ、看護第二学科の一日がスタートします。

授業や実習の合間では、各人の仕事での出来事や苦勞、この先に待ち構える課題や実習記録、試験など、どのように備えるかの確認、つらい気持ちの吐露、励まし、そんなやり取りが一日を通して、飛び交います。

仕事しながらの学業。学校に通うということが何となくでは維持できるわけがありません。

看護師になるという意志に支えられての並々ならぬ思いの3年間です。

そのような3年間で1242名に及ぶ看護師の人生に刻まれてきたと思うと、課程廃止という分岐点がより一層の重みを増します。

そういった重みある49年間という年月を通して、看護第二学科の教員は学生を支え続けてきました。それは、教える者と学ぶ者という関係性以上の、「いずれ同僚になる」「共に看護師として存在する」「ともに働く者同士」という気概をもった教員達で綿々と積み上げられてきました。

卒業生の多くが、今の自分を形づくってきた時間・場所である厚木看護専門学校は、看護師としての自分の出発点や居場所になっているのではと思います。

看護第二学科廃止によって、看護第二学科という教育機関はなくなってしまうますが、その出発点や居場所は決して消滅してしまうわけではありません。

学校がこれからも、いつまでも、看護師の出発点や居場所としてあり続けてもらえるよう、看護教員は看護教育を実践してきました。そしてその気持ちで看護第二学科廃止を迎えたいと思います。

これまで、厚木看護専門学校看護第二学科を支えていただいた多くの卒業生とそのご家族、関係者、実習施設や講師の先生方、本当にありがとうございました。

沿革 看護第二学科 49 年の歩み

西暦	年号・月	
1972	昭和47年4月	看護婦2年課程(定時制・1学年定員40名)を「看護婦学科」として新設
		学校名を「厚木准看護婦学校」より「厚木看護学院」に改称
	7月	新校舎完成(厚木市寿町2丁目2番4号)
1980	昭和55年11月	専修学校として専門課程・高等課程の学校課程認可
1981	昭和56年4月	学校名を「厚木看護専門学校」に改称
1982	昭和57年3月	校歌と校章を新たに制定、制服を変更
	4月	看護第一学科(3年課程・全日制)の新設に伴い、「看護婦学科」から「看護第二学科」に名称変更
1983	昭和58年8月	校旗作成
1984	昭和59年4月	定員40名から20名に変更
1989	平成元年4月	第2次カリキュラム改正
1993	平成5年10月	第1回「文化祭」を開催
1995	平成7年3月	卒業生に対して「専門士(医療専門課程)」の称号を付与
	7月	制服の自由化実施
1996	平成8年4月	第3次カリキュラム改正
1997	平成10年3月	在宅看護実習棟完成
	4月	定員20名から30名に変更
2000	平成12年8月	社会人入学試験導入
2005	平成17年11月	第1回「看護を考える日」を開催
		学校ホームページ開設
2006	平成18年9月	指定校推薦入学導入
2009	平成21年4月	第4次カリキュラム改正
2010	平成22年4月	新校舎へ移転(厚木市松枝2丁目6番5号)
		看護第二学科の定員を30名から40名へ変更
	5月	最後の体育祭開催
	6月	卒後1年目を対象として第1回「厚看卒新人看護師のつどい」開催
2014	平成25年4月	開校形態を半日週5日から全日週3日へ変更
2015	平成27年5月	オリジナルキャラクター「あっぴい」の誕生
2019	平成31年4月	看護第二学科募集停止
2021	令和3年3月	看護第二学科課程廃止



卒業状況

回生	入学年度	定員(人)	入学(人)	卒業(人)
1	1972	40	42	26
2	1973	40	27	23
3	1974	40	43	39
4	1975	40	42	32
5	1976	40	37	27
6	1977	40	35	23
7	1978	40	40	31
8	1979	40	36	29
9	1980	40	40	34
10	1981	40	41	38
11	1982	40	34	26
12	1983	40	40	32
13	1984	20	19	18
14	1985	20	20	17
15	1986	20	21	18
16	1987	20	24	24
17	1988	20	24	22
18	1989	20	31	29
19	1990	20	30	26
20	1991	20	22	21
21	1992	20	22	20
22	1993	20	24	21
23	1994	20	22	20
24	1995	20	22	18
25	1996	20	23	20
26	1997	20	20	19
27	1998	30	30	24
28	1999	30	31	29
29	2000	30	29	23
30	2001	30	31	22
31	2002	30	36	32
32	2003	30	33	28
33	2004	30	32	29
34	2005	30	27	27
35	2006	30	34	28
36	2007	30	31	30
37	2008	30	29	28
38	2009	30	34	30
39	2010	40	41	37
40	2011	40	30	25
41	2012	40	29	23
42	2013	40	24	19
43	2014	40	44	38
44	2015	40	40	39
45	2016	40	27	23
46	2017	40	26	25
47	2018	40	30	30
合計			1449	1242

教育課程の変遷

<1972年～>		時間数			
授業科目		時間数	時間数	時間数	時間数
基礎科目	物理学	30			30
	化学	30			30
	生物学		30		30
	統計学	15			15
	社会学	30			30
	心理学	45			45
	教育学		30		30
	倫理学	30			
	英語	90			
	文学	30			
専門科目	音楽	40			40
	体育	30	60		90
	小計	370	120	0	490
	医学概論	15			15
	解剖学	30			30
	生理学	30			30
	生化学		45		45
	栄養学	20			20
	公衆衛生学		30		30
	社会福祉		15		15
専門科目	衛生法規	15			15
	微生物学	30			30
	病理学		45		45
	リハビリテーション概論		20		20
	薬理学	30			30
	放射線医学		15		15
	看護概論	45			45
	看護管理			15	15
	看護技術			75	75
	臨床検査	10			10
専門科目	看護史		10		10
	成人看護概論		15		15
	成人保健		60		60
	精神科学衛生			20	20
	内科疾患看護		105		105
	精神科学看護		30		30
	外科学看護		60		60
	整形外科看護		30		30
	皮膚科学看護			15	15
	泌尿器科学看護		15		15
専門科目	眼科学看護			15	15
	耳鼻咽喉科学看護			15	15
	歯科学看護			15	15
	小児看護概論		15		15
	小児保健		30		30
	小児疾患看護		46		46
	母性看護概論		15		15
	母性保健		30		30
	産科学看護		15		15
	小計	225	646	170	1041
実習	看護技術と演習	90		60	150
	総合実習				
	内科疾患と看護				
	急伝看護			200	200
	結核看護				
	精神科疾患と看護			45	45
	外科疾患と看護				
	整形外科疾患と看護			160	160
	皮膚科疾患と看護			30	30
	泌尿器科疾患と看護				
実習	耳鼻咽喉科疾患と看護			20	20
	眼科疾患と看護			30	30
	婦人科疾患と看護			20	20
	小児疾患と看護				
	小児保健			140	140
	母性疾患と看護				
	母性保健			140	140
	保健所実習			45	45
	小計	90	0	890	980
	合計	225	646	1060	2511

<1979年～>		時間数	1年次	2年次	3年次	
授業科目		時間数	時間数	時間数	時間数	時間数
基礎科目	物理学	30				30
	化学	30				30
	生物学	30				30
	統計学	45				45
	社会学	30				30
	心理学	45				45
	教育学			30		30
	英語	60	30			90
	文学	30				30
	音楽	20	20			40
専門科目	体育	45	60			105
	小計	365	140	0	0	505
専門科目	医学概論	15				15
	解剖学	15	15			30
	生理学	30				30
	生化学	15	15	15		45
	公衆衛生学	30				30
	社会福祉	15				15
	衛生法規	15				15
	微生物学	15	15			30
	病理学	30	15			45
	臨床検査	15				
専門科目	薬理学	15	15			30
	放射線医学	15				15
	看護概論					
	看護管理					
	看護研究					
	看護史					
	看護技術	30	30	15		75
	成人看護概論	15				15
	成人保健	60				60
	内科疾患看護	30	45	30		105
専門科目	精神科疾患看護	30				30
	外科疾患看護			60		60
	整形外科疾患看護			30		30
	婦人科疾患看護					
	皮膚疾患と看護			15		15
	泌尿器疾患と看護			15		15
	眼科疾患と看護			15		15
	耳鼻咽喉疾患と看護			15		15
	歯科疾患と看護			15		15
	リハビリテーション概論			20		20
専門科目	小児看護概論			15		15
	小児保健			30		30
	小児疾患看護			45		45
	母性看護概論			15		15
	母性保健			60		60
	母性疾患看護	15				15
	小計	465	500	60		1025
	看護学総論実習	120	110			230
	内科				240	240
	外科				120	120
実習	整形外科				120	120
	小児看護学実習				140	140
	母性看護学実習				140	140
	リハビリテーション科実習				40	40
	精神科実習				64	64
	保健所実習				40	40
	小計	120	110		904	1134
	合計	465	500		964	2664

<1986年～>			時間数	1年次	2年次	3年次		
授業科目			時間数	時間数	時間数	時間数		
基礎科目	人文	心理学	30				30	
		哲学	30				30	
	社会	社会学		30			30	
		教育学		30			30	
	自然	生物学	30				30	
		物理学	30				30	
	外国語	英語		105			105	
		保健体育	45				30	
小計			165	165	0	315		
専門基礎科目	医学概論		15				15	
	解剖生理学		60				60	
	生化学			30			30	
	薬理学			30			30	
	微生物学		30				30	
	病理学			90			90	
	公衆衛生学		15				15	
	社会福祉			30			30	
	関係法規		15				15	
	精神保健			60			15	
リハビリテーション医学		15				10		
小計			150	240	0	340		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	30			30	30	
		基礎看護技術		90			90	
		臨床看護総論		45			45	
	成人看護学	成人看護概論		15			15	
		成人保健		30			30	
		成人臨床看護			180		180	
	老人看護学	老人看護概論		15			15	
		老人保健		15			15	
		老人臨床看護			30		30	
	小児看護学	小児看護概論		15			15	
		小児保健		30			30	
		小児臨床看護			45			
	母性看護学	母性看護概論		15			15	
		母性保健		30			30	
		母性臨床看護			45		15	
	実習	基礎看護学Ⅰ		15				15
		基礎看護学Ⅱ			15			15
		基礎看護学Ⅲ				30		15
基礎看護学Ⅳ				30		30		
成・老人看護学Ⅰ				90		90		
成・老人看護学Ⅱ				90		90		
成・老人看護学Ⅲ				90				
成・老人看護学Ⅳ				90				
成・老人看護学Ⅴ				90				
小児看護学				90				
母性看護学				90				
小計			45	315	1020	810		
合計			360	720	1020	1465		

<1996年～>		単位数		第1学年		第2学年		第3学年		計	
授業科目		単位 数	時間 数	単位 数	時間 数	単位 数	時間 数	単位 数	時間 数	単位数	時間数
基礎 分野	哲学と倫理	1	30							1	30
	教育学	1	30							1	30
	心理学	1	30							1	30
	生物学と環境科学	1	45							1	45
	看護に生かす物理学	1	30							1	30
	社会学	1	45							1	45
	英語	1	45							1	45
	芸術							1	15	1	15
	体育と運動生理学	1	45							1	45
	小計	8	300					1	15	9	315
専門 基礎 分野	解剖生理学	1	45							1	45
	生化学と栄養			1	30					1	30
	病理学	1	15							1	15
	疾病論Ⅰ			1	30					1	30
	疾病論Ⅱ			1	30					1	30
	微生物学	1	15							1	15
	薬理学			1	30					1	30
	保健医療論と病院管理経営					1	15			1	15
	社会福祉			1	30					1	30
	公衆衛生学	1	15							1	15
	関係法規	1	15							1	15
	日常生活と法					1	15			1	15
	リハビリテーション学			1	15					1	15
	研究の基礎と情報科学	1	30							1	30
小計	6	135	6	165	2	30			14	330	
専門 分野	基礎看護学										
	基礎看護学目的論	1	15							1	15
	基礎看護学対象論	1	30							1	30
	基礎看護学方法論Ⅰ	1	45							1	45
	基礎看護学方法論Ⅱ	1	45							1	45
	リハビリテーション看護	1	15							1	15
	看護理論と看護過程	1	30							1	30
	看護研究					1	30			1	30
	在宅看護論										
	在宅看護論目的論	1	15							1	15
	在宅看護論対象論			1	30					1	30
	在宅看護論方法論			1	45					1	45
	精神看護学										
	精神看護学目的論			1	15					1	15
	精神看護学対象論			1	30					1	30
	精神看護学方法論			1	45					1	45
	成人看護学										
	成人看護学目的論			1	15					1	15
	成人看護学対象論			1	30					1	30
	成人看護学方法論			1	45					1	45
	老年看護学										
	老年看護学目的論			1	15					1	15
	老年看護学対象論			1	30					1	30
	老年看護学方法論			1	45					1	45
	小児看護学										
	小児看護学目的論			1	15					1	15
	小児看護学対象論			1	30					1	30
	小児看護学方法論			1	45					1	45
	母性看護学										
	母性看護学目的論			1	15					1	15
母性看護学対象論			1	30					1	30	
母性看護学方法論			1	45					1	45	
小計	7	195	17	525	1	30			25	750	
臨地実習											
基礎看護学Ⅰ			1	45					1	45	
基礎看護学Ⅱ						2	90		2	90	
在宅看護論						2	90		2	90	
精神看護学						2	90		2	90	
成人看護学Ⅰ						1	45		1	45	
成人看護学Ⅱ						2	90		2	90	
老年看護学						2	90		2	90	
母性看護学						2	90		2	90	
小児看護学						2	90		2	90	
小計			1	45	15	675	16	720			
合計		21	630	24	735	19	750	64	2115		

<2007年～>			単位数		第1学年		第2学年		第3学年		計		
授業科目			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	人間と人間生活	哲学と倫理	1	30							1	30	
		教育学	1	30							1	30	
		心理学	1	30							1	30	
		社会学	1	45							1	45	
		芸術							1	15	1	15	
		人間関係論Ⅰ	1	15							1	15	
	科学の基礎	人間関係論Ⅱ				1	15				1	15	
		物理学	1	30							1	30	
		情報科学	1	30							1	30	
		英語	1	45							1	45	
	論理学	1	30							1	30		
小計			9	285	1	15	1	15	1	15	3	315	
専門基礎分野	人体の構造と機能の理解	解剖生理学Ⅰ	1	15							1	15	
		解剖生理学Ⅱ	1	30							1	30	
		生化学				1	30				1	30	
		栄養学				1	15				1	15	
		微生物学	1	15							1	15	
		薬理学				1	30				1	30	
	人体の成立と発達	病理学	1	15							1	15	
		疾病と治療Ⅰ				1	30				1	30	
		疾病と治療Ⅱ				1	30				1	30	
		リハビリテーション学				1	30				1	30	
		福祉における援助	1	15							1	15	
		保健医療福祉論				1	15				1	15	
	社会生活の発展	医療と倫理				1	15				1	15	
		障害者福祉論				1	15				1	15	
	関係法規	1	15							1	15		
	公衆衛生と日常生活						1	15		1	15		
小計			6	105	9	210	1	15	16	330			
専門分野	在宅看護学	基礎看護学											
		基礎看護学Ⅰ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅱ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅲ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅳ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅴ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅵ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅶ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅷ	1	30							1	30	
		基礎看護学Ⅸ							1	30	1	30	
		在宅看護論											
		在宅看護論Ⅰ	1	15							1	15	
		在宅看護論Ⅱ				1	30				1	30	
		在宅看護論Ⅲ				1	30				1	30	
		成人看護学											
		成人看護学Ⅰ	1	30							1	30	
		成人看護学Ⅱ				1	30				1	30	
		成人看護学Ⅲ				1	30				1	30	
		老年看護学									0	0	
	老年看護学Ⅰ	1	30							1	30		
	老年看護学Ⅱ				1	30				1	30		
	老年看護学Ⅲ				1	30				1	30		
	小児看護学									0	0		
	小児看護学Ⅰ				1	15				1	15		
	小児看護学Ⅱ				1	30				1	30		
	小児看護学Ⅲ				1	30				1	30		
	母性看護学									0	0		
	母性看護学Ⅰ				1	15				1	15		
	母性看護学Ⅱ				1	30				1	30		
	母性看護学Ⅲ				1	30				1	30		
	精神看護学									0	0		
	精神看護学Ⅰ	1	15							1	15		
	精神看護学Ⅱ				1	30				1	30		
	精神看護学Ⅲ				1	30				1	30		
	小計			12	330	14	390	1	30	27	750		
	臨床実習	臨床実習											
基礎看護学実習Ⅰ					1	45				1	45		
基礎看護学実習Ⅱ								2	90	2	90		
在宅看護論実習								2	90	2	90		
成人看護学Ⅰ								2	90	2	90		
成人看護学Ⅱ								1	45	1	45		
老年看護学								2	90	2	90		
小児看護学								2	90	2	90		
母性看護学								2	90	2	90		
精神看護学								2	90	2	90		
小計					1	45	15	675	16	720			
合計			27	720	25	660	18	735	70	2115			

<2010年～>																
授業科目		単位数		第1学年		第2学年		第3学年		計						
		単位 数	時間 数	単位 数	時間 数	単位 数	時間 数	単位 数	時間 数	単位数	時間数					
基礎 分野	人間と人間生活 の理解 科学的思考	哲学と倫理	1	30							1	30				
		教育学	1	30							1	30				
		心理学	1	30							1	30				
		社会学	1	30							1	30				
		人間関係論Ⅰ	1	15							1	15				
		人間関係論Ⅱ					1	15			1	15				
		物理学	1	30							1	30				
		情報科学	1	30							1	30				
		英語	1	30							1	30				
		論理学	1	30							1	30				
小計		9	255	1	15					10	270					
専門 基礎 分野	人体の構造 と機能の関連 人体の成り立ちと 回復の促進 健康増進と社会	解剖生理学Ⅰ	1	30							1	30				
		解剖生理学Ⅱ	1	30							1	30				
		生化学					1	30				1	30			
		栄養学					1	15				1	15			
		微生物学	1	15							1	15				
		薬理学					1	30				1	30			
		病理学	1	15							1	15				
		疾病と治療Ⅰ					1	30				1	30			
		疾病と治療Ⅱ					1	30				1	30			
		リハビリテーション学					1	30				1	30			
		福祉における援助	1	30							1	30				
		保健医療福祉論					1	15				1	15			
		医療と倫理					1	15				1	15			
		障害者福祉論					1	15				1	15			
公衆衛生と関係法規								1	30	1	30					
小計		5	120	9	210	1	30	15	360							
専門 分野		基礎看護学														
		基礎看護学Ⅰ	1	30							1	30				
		基礎看護学Ⅱ	1	30							1	30				
		基礎看護学Ⅲ	1	30							1	30				
		基礎看護学Ⅳ	1	30							1	30				
		基礎看護学Ⅴ	1	30							1	30				
		基礎看護学Ⅵ	1	30							1	30				
		基礎看護学Ⅶ	1	15							1	15				
		リハビリテーション看護	1	30							1	30				
		臨床実習														
		基礎看護学実習Ⅰ					1	45								
		基礎看護学実習Ⅱ							1	45						
		小計		8	225	1	45	1	45	10	315					
		成人看護学														
		成人看護学Ⅰ	1	30							1	30				
		成人看護学Ⅱ					1	30			1	30				
		成人看護学Ⅲ					1	30			1	30				
		老年看護学														
		老年看護学Ⅰ	1	30							1	30				
		老年看護学Ⅱ					1	30			1	30				
		老年看護学Ⅲ					1	30			1	30				
		小児看護学														
		小児看護学Ⅰ					1	15			1	15				
小児看護学Ⅱ					1	30			1	30						
小児看護学Ⅲ					1	30			1	30						
母性看護学																
母性看護学Ⅰ					1	15			1	15						
母性看護学Ⅱ					1	30			1	30						
母性看護学Ⅲ					1	30			1	30						
精神看護学																
精神看護学Ⅰ	1	15							1	15						
精神看護学Ⅱ					1	30			1	30						
精神看護学Ⅲ					1	30			1	30						
臨床実習																
成人看護学								2	90	2	90					
老年看護学								2	90	2	90					
小児看護学								2	90	2	90					
母性看護学								2	90	2	90					
精神看護学								2	90	2	90					
小計		3	75	12	330	10	450	25	855							
在宅看護論																
在宅看護論Ⅰ					1	30				1	30					
在宅看護論Ⅱ					1	30				1	30					
在宅看護論Ⅲ					1	30				1	30					
看護の統合と実践										0	0					
看護の統合Ⅰ								1	30	1	30					
看護の統合Ⅱ					1	30				1	30					
看護の統合Ⅲ								1	30	1	30					
看護の統合Ⅳ								1	30	1	30					
臨床実習																
在宅看護論実習								2	90	2	90					
看護の統合実習								2	90	2	90					
小計					4	120		7	270	11	390					
合計		25	675	27	720	19	795	71	2190							

写真で振り返る・・・思い出



1972 年 看護第二学科新設



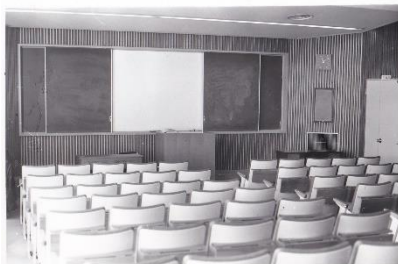
学校名が「厚木看護学院」となる



玄関



調理室



視聴覚室



体育館兼講堂



教室



保健室



図書室



1982 年

学校名が「厚木看護専門学校」に改称



1983 年

校旗作成



1993 年～

文化祭



1997 年 在宅看護実習棟完成



2010 年

新校舎へ移転



第一実習室



母性小児実習室



在宅実習室



学生ホール



玄関



談話室



図書室



標本室

学校生活の一場面 . . .

授業風景



様々なことを考え学びました



演習

職場での体験を生かしつつ、
新たな学びをしました。



文化祭



クラスで…



科を超えて…



防災訓練

起震車



消火訓練



2011 年の震災の時には

その備えが役に立ちました

七夕



願いを込めて…

～2010 年度 体育祭



クラスで一致団結!!



看護を考える日



さまざまな講師を招き、人間性の向上を図るために看護にまつわる様々なテーマをもとに科を超えて話し合いました。

豆まき



邪気を払う!!



鬼の絵に向かって豆まき

コロナ禍での学内実習



みんなで患者役を熱演し、
看護を学びました

国家試験への願いを込めて…



先輩からのだるま



結団式



合格マドワーズ

差し入れいろいろ頂きました

クラスで団結して…

様々な人々の応援を受けて…

卒業生より在学中の思い出

向日葵

16 回生 渡辺美和 (旧姓 池上美和)

社会福祉法人 神奈川リハビリテーション事業団

神奈川リハビリテーション病院 副看護部長



看護第二学科が 49 年の歴史に幕を下ろす 2021 年 3 月、約 30 年前の学生生活を回想いたしました。校舎は現在地とは異なり、本厚木駅から一番街を通り抜けた場所に位置し、ブリティッシュグリーン制服に身を包み通学しておりました。生活は病院と学校の往復で、特に夜勤明けの授業が辛かった記憶が甦りますが、患者さん・ご家族・指導者さんとの出会いがあった実習は大変充実した日々でした。長年看護師として学び・働き続けられたのは、学生生活で培った時間管理の賜物だと 3 人の子供が巣立った今、身をもって痛感いたします。

卒業式の日、担任の北川先生は 24 名の卒業生一人ひとりを花にたとえ、メッセージを送ってくださいました。

「陽に向かう向日葵、その明るさが患者さんを救うことでしょう。」

色々な場面でこの言葉を思い出し、看護師として歩んでまいりました。

今後も卒業生としての誇りを持ち、看護サービスの向上に力を注いでいく所存です。卒業生の今後のご活躍と厚木看護専門学校のご発展を祈念いたします。

決断を積み重ねた思い出

26 回生 佐久間謙一

医療法人 弘徳会 愛光病院 看護科長

厚木看護専門学校同窓会長



私が在籍していたころは現在の新校舎ではなく市役所の近くの校舎でした。学生数は 1 学年の 20 名で現在の学生数の半分でした。途中 1 名の退学があったため 19 名でともに 3 年間の学生生活を過ごしました。

私の在学中の思い出は、教育キャンプです。私は 1 年生の時は副村長。2 年生の時は村長でした。1 年生の時は 2 年生の村長と副村長に付いていただけでした。しかし、2 年生の時の村長は、責任の重さに押しつぶされました。2 日目の登山の予定日に朝から雨が降っていました。村長の私が責任者として決断を迫られました。実をいうと、決断できずに曖昧なまま登山を決行し途中の登山道で川があふれてそこで登山を中止しました。しかし、後で聞いた話では、私が途中で登山道を外れていたそうです。川があふれていなければそのまま登山を決行していただろうと思うので今考えるとゾッとします。しかし、看護第二学科で教育キャンプをはじめいろいろな行事・演習や実習を通して決断する体験の積み重ねが、現在看護師長をしている私には大きな糧となっています。看護第二学科が閉科することはさみしい思いが大きいですが、その魂は受け継いでいきたいと考えています。

医療看護のグローバル化へ

31 回生 Thayer 木綿子(旧姓 今井木綿子)

アメリカン航空 客室乗務員



北海道出身の私は、准看護師の資格取得後臨床勤務を経て、2005 年、厚木看護専門学校看護第二学科へ進学しました。教育課程を通し、人の間で生きる人間としての哲学や、様々な背景を持つ患者へ向き合う医療者としての土台、看護師としてのリーダーシップとチームワークを構築する為の実践力を学びました。“できないかもしれない”という限界は常に自分の中にあり、“できる”道への判断や決断、行動力もまた自分の中にあります。達成するという事は新たなスタートラインに立つこと、最終的には自分がどうあるかという事、学内外の先生方や、同期先輩後輩に助けられながら看護第二学科での3年間での大きな学びが、現在の自分を構築し視野を広げ続けています。

卒業後は秦野赤十字病院へ就職し、その後は渡米、カリフォルニア州、テキサス州登録看護師の資格を取得し、文化人種の複雑な米国にて、短期長期ケアやホスピスケアを経験しました。現職は、外資系航空会社にて客室乗務員をしており、航空機内での医療的緊急事態への対応、日系航空会社との共同事業監査など、社内外で他職種と協力し日米間の架け橋としてのプロジェクトを行っております。COVID-19 パンデミックを通して日本の精神心理看護学の改善向上や社会への展開の必要性を更に痛感し、今後何らかの形で貢献させていただければと思います。厚木看護専門学校にはパッションがあり全力でサポートしてくれる素晴らしい学校だと思っています。今後の厚木の更なるご隆昌を願っております。

3 年間の思い出

47 回生 鋤持元



看護第二学科に入学すると、私の他にクラスメイトで男子学生は 1 人しかおらず、今後やっていけるのか不安が大きかったのを憶えています。しかしクラスメイトは皆話やすく、楽しい 3 年間を送ることができました。委員会活動では学生自治会の役員を務めたことで、自分の意見を相手に伝えるためにはどうしたらよいのか、悩むことが多かったです。そのため、説明がわかりやすい先生を見本にして自分の伝え方と違う点を見つけ、うまく相手に伝わるポイントを自分なりに分析しました。その結果、入学当初よりも自分が伝えたい要点を相手に伝えられるようになりました。看護実習では小児看護学実習で受け持たせて頂いた患者様に、アニメのキャラクターを題材にしたクイズを作成しました。患者様が遊びとしてリハビリテーションができるように、おもちゃとして使ってもらえたのがとても嬉しく思いました。そのクイズを使って一生懸命答えてくれた患者様の姿が、今でも忘れられません。今後、学校のことを思い出す時は、学校のクラスメイト、先生方だけではなく、受け持たせて頂いた患者様方との思い出も一緒によみがえってくると思います。3 年間ありがとうございました。



←実際に作成したのクイズのおもちゃ

最後の卒業式

看護第二学科にとって最後の卒業式が2021年3月2日に行われました。卒業式への参列者は卒業生1人につき1名までと制限し、看護第一学科の卒業式と分けて行うなど感染対策のもと行われ、最後の卒業生30名一人ずつに学校長から卒業証書が手渡されました。

学生にとって学校生活最後の年は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年でした。卒業生代表の山口純子さんは感謝の言葉として「このような状況下において、この学校の卒業生として、患者さんの看護に関われることの意味を深く受け止めています。私たちは今看護に何が求められているのかということに常に目を見張り、学び続けていくとともに、生命の尊さを知り、看護に関わるものとしての責任と役割の大きさをしっかりと受け止め、患者さん一人ひとりに誠実に接していかなければならないと切に感じています。」と述べ、臨床への旅立つ決意を表していました。

卒業生の表情には准看護師過程を含め看護師になるために要した5年間の日々がやっと終わるという安堵の気持ちと、これから待ち受けている責任をしっかりと受け止めていこうという気概を感じるとても良い表情をしていました。

卒業式は、さみしさはもちろんです、今までともに学んできた学生が晴れやかな表情をし、看護師として自律して巣立っていくことは、とてもうれしい事です。看護第二学科で学んだ卒業生が、学校での学びを胸に刻み、新たな環境で大きな花を咲かせてもらいたいと願っています。



＜編集後記＞

『看護第二学科廃止に寄せて』をお読みいただきありがとうございます。過去をたどること 49 年、看護第二学科で学んだ学生や、支えてきた方々の熱い思いを伝えられればと、今回このような形でホームページに掲載させて頂くことを企画しました。編集にあたっては、教職員そして卒業生として様々な場所で活躍されている方々の協力なくしては成し遂げることはできませんでした。原稿依頼に皆様快く応じて頂き、心より感謝申し上げます。学内に保管されている資料や頂いた資料を調べていくと、様々な人々の笑顔と、努力が垣間見えました。読み終わった時、懐かしい気持ちやこれからも頑張ろうという気持ちになっていただければ幸いです。看護第二学科は廃止となりますが、これからも厚木看護専門学校を引き続きよろしくお願いいたします。

編集担当 専任教員 西川裕美